sendai-city chronicles communication paper.

せんだい 市史通信

第14号
仙台市博物館
市史編さん室

せんだい 今 昔

宮城野の植物二題

プロ野球で賑わいを見せる宮城野原公園総合運動場一帯は、古来「宮城野」と称されてきた場所でした。江戸時代は「生巣原（いけすはら）」とも称され、仙台藩主の狩猟場として開発が制された場所でした。この「生巣原」は狩猟場であると同時に、秋には萩が咲き乱れ、鈴虫の音を聞くことのできる場所として、仙台城下士民の歓楽の場にもなっていたことはよく知られています。

この宮城野に咲き乱れた萩がどのような種類であったのかは、じつははっきりしません。植物学上の分類では、ミヤギノハギ、センダイハギという種が存在します。しかし、前者はマメ科の落葉低木で北陸から中国地方に自生し、園芸品種の可能性も指摘されているものであり、後者はマメ科の多年草でどちらかというと北方系の植物で、宮城県近辺が分布の南限にあたり、仙台に多く自生するというものでもないようです。

実際に宮城野に自生し江戸時代に「宮城野の萩」と称されていたのは、キハギやエゾヤマハギ、ツクシハギ等であったと考えられています。仙台や宮城野にちなんだ名のついた萩が、じつはそこに自生していたものでないというのもちょっと不思議な話です。

ところで、宮城野一帯に植えられていた植物で、かつて全国的に知られていたものがほかにもありました。それは沢瀉（たくしゃ）と川芎（せんきゅう）です。どちらも薬の原料（薬種（やくしゅ））として江戸時代中期以降に栽培が広まったものですが、なかでも仙台藩から産出されるものは、日本産では質・量共にトップレベルでした。仙台産の薬種の生産が安定しないと江戸の薬種市場が不安定になる、と幕府から注文がつくほどでした。仙台藩では18世紀初めに若林城の跡地を薬種の栽培試験場（「御薬園」）とするなど、薬種の増産に力を入れていました。

こうした仙台藩における薬種の生産中心となったのが宮城野をはじめとする仙台城下東方の平野部でした。江戸時代の古文書には、宮城野周辺での沢瀉や川芎の産出状況を示すものや、城下商人たちがその独占的な買い付けを行おうとしている様子がわかるものも残されています。

このように、仙台領の名産品として知られた薬種もいつのまにか栽培が衰退し、現在ではその面影すら記憶に残されていません。宮城野は明治に入ると陸軍の演習場とされ、第二次世界大戦後は公園、あるいは国鉄の貸物駅や住宅地となり大きな変貌を遂げました。萩にしても薬種にしても、宮城野とは縁が深かったものの現在に続いてこなかった、そこに宮城野がたどった歴史の大きな動きを見るような気がします。

「奥州仙台名所尽集」萩を楽しむ人びとのようす　仙台市博物館蔵

左：川芎　右：沢瀉　いずれも根を乾燥させて鎮痛剤などに用いる
写真提供 東北大学大学院薬学研究科附属薬用植物園

仙台市史　通史編５　近世３

古来からの歴史に思いをはせつつ
― 600ページにギュッ

近世後期の仙台と仙台藩

「仙台市史」はすでに21冊が刊行されていますが、そのうち「通史編　近世」では３冊にわたって江戸時代全体を扱っています。「近世１」は城下町仙台を築いた伊達政宗とそれを引き継いだ２代藩主忠宗の時代まで、「近世２」は仙台藩を震撼させた伊達騒動から５代藩主吉村の財政建て直しまでを紹介しています。ここでは３冊目となる「通史編５　近世３」について触れてみましょう。

あいつぐ飢饉や財政難のなかでみせた村のすがた、文化のひろがり ―明治維新までの120年間

この巻では、６代藩主伊達宗村（1718～1756）の治世から、13代藩主伊達慶邦（1825～1874）の治世に戊辰戦争直前の明治維新を迎えるまでの120数年間にわたる仙台市域のできごとを、新出の資料をもとにわかりやすく述べています。

この時代は早逝する藩主が多かったため、政治が混乱し、当時の資料も体系的に整理されておらず、政治の動きや経済活動の推移なども詳細は明らかではありませんでした。今回、新たに収集した資料をもとにそれらを解明し、次第に困窮して行く藩の財政と上方の豪商との関係や、城下で営まれた種々の生業のようすを詳しく述べています。

また天明・天保年間に起こった大飢饉のようすを、残された日記などから分析したものを紹介し、地震や大雨などの災害の状態を、当時の気候を復元しながら解明しています。仙台藩の経済基盤として最大の関心事である農政の展開についても、村人の毎日の暮らしや産物・諸業など具体的な営みとともにみることができます。

仙台城下大町の町並み（『慶応元年仙台城下図屏風』）　仙台市博物館蔵

激動の時代、世界に向け動き出した仙台藩 ―蝦夷・ロシア・アメリカをめぐって

仙台藩のこの時代を特徴づける事柄として挙げられるのは、海外とのかかわりを持つ人物を輩出したことです。蘭学を通じて洋学を修めようという時代の中で、仙台藩にはその知識を旺盛に吸収しようとした人びとがいたのです。海外への意識を強く持つことは、ちょうど医学や洋学を教授しようと改革を進めていた、仙台藩の藩校養賢堂が目指したことでもありました。

大槻玄沢　仙台市博物館蔵

玉虫左太夫　仙台市博物館蔵

仙台藩の林子平や工藤平助は江戸での蘭学者たちとの交流によって、北方への関心を著述として残しています。大槻玄沢はオランダ語にふれながら医学の研究を進め、わが国の洋学の第一人者となっています。幕府の行ったショメルの百科辞書の翻訳事業には、玄沢とその門人が参加しています。また玄沢は仙台藩の漂流民の世界周航を『環海異聞』としてまとめています。小野寺丹元はロシア語を習得してロシアを研究し、大槻文彦・富田鉄之助・高橋是清らは英語の重要性を知り、学んでいます。幕府遣米使節船に乗りはじめてアメリカにわたって記録を残しているのは、玉虫左太夫でした。これらの人びとの活躍ぶりを、たくさんのエピソードを交えながら、わかりやすく紹介しています。

資料みつけた

第1回仙台市長選挙と市会

第１回仙台市長選挙が、明治22年4月25日の第1回市会で実施されたことが『明治二十二年　市会議事録』に記録されています。

それによると、第1回市会では36名の市会議員中33名が出席、まず年長者が仮議長となって村松亀一郎が議長に選出され、その下で市長候補者3名が選挙されました。市長候補者は1名ずつ市会の中で選挙していく方式が採られ、第1回の選挙で遠藤庸治が23票を獲得し第一候補に選ばれました。第2回は過半数獲得者がいなかったため決戦投票が行われ但木良治が18票で候補となり、第3回にも同様に決戦投票が行われ竹内寿貞が23票で選出されました。この3名を候補者として内務大臣に推薦したところ、遠藤庸治が初代市長に任命されたのです。5月3日の第2回市会では、助役に里見良顕（第2代市長）を選出、更に6名の参事会員が選ばれました。市参事会は、議会で選出された6名の参事会員（藤沢幾之輔、菅克復、氏家時徳、佐藤三之助、本野小平、伊沢平蔵）と市長・助役で構成され、議会に提案する案件の審議など市政の執行機関として重きをなしました。

第1回の市議会議員の選挙は、市長選挙より前の4月18日から3日間実施されています。当時の市会議員は納税額により3つの級に分けられ、級毎に12名ずつ選出されるシステムで、選挙有権者は高額納税者に限られており、凡そ3500名でした。『奥羽日日新聞』によれば、選挙は市政をどのように運営するのかをめぐり二大会派（抱一館・中心会の連合対同志会）が激突、4月には新聞にそれぞれの決意文を掲載して、宣伝合戦を行い、両派とも一歩も譲らず、選挙当日には投票場に旗を立て競うなど、全国的にもまれに見る激戦であったと報じられています。その結果、抱一館・中心会が25名、同志会が11名選出され、前者が推す遠藤庸治が市長第一候補に選ばれたのです。抱一館・中心会は藤沢幾之輔、遠藤庸治、早川智寛ら実業家的色彩の強い人たちのグループで、対する同志会は遠藤温、菅克復など旧藩の上士や区制時代の官吏を中心とするグループでした。

この記録からすると、初代の市長は内務大臣による任命ではあったものの、限られてはいるが間接的に民意を反映する方法で選ばれていることが分かります。

ところで、市議会事務局に残る明治22年からの「市会議事録」や「市参事会議事録」は貴重な資料であり、東京都では同様な資料を文化財に指定して保存しています。戦災に遭った仙台としては、戦前の仙台を物語る数少ない資料の一つであり、大事に後世に伝えたいものです。

明治22年 第1回仙台市会の議事録　仙台市議会事務局蔵

お知らせ

『仙台市史　通史編1　原始　旧石器時代』〔改訂版〕の刊行について

平成17年7月　仙台市博物館市史編さん室

平成12年11月に、藤村新一元東北旧石器文化研究所副理事長による旧石器遺跡発掘ねつ造が発覚いたしました。仙台市史編さん事業のなかで平成11年に刊行されました『仙台市史　通史編1　原始』（以下「元版」という）につきましても、ねつ造された資料に基づく記述が含まれることが明らかとなりました。結果的に読者の皆様に誤った歴史叙述を提供してしまったことを深くお詫び申し上げます。

正しい資料に基づいた旧石器時代の歴史像を市民の皆様にご提示することが、事業の趣旨にも合致するとの考えから、このたび『仙台市史　通史編1　原始　旧石器時代』〔改訂版〕（以下「改訂版」という）を刊行いたしました。

改訂版につきましては、元版のなかでねつ造問題によって価値を失った一部の記述を改訂するという趣旨から、元版を購入された市民の皆様には無償でご提供することにいたしました。該当される方は、下記の要領でお申し込みください。早急に改訂版を差し上げます。

また、元版はねつ造問題の発覚に伴い販売を停止しておりましたが、改訂版の刊行を受けて、改訂版とセットで販売を開始することにいたしました。なお、改訂版単独での販売は行いませんので、ご了承ください。

元版をご購入いただいた方への改訂版引渡し方法について

●お申し込み方法

元版を下記宛て、郵便・宅配便の料金着払いでご送付ください。
あるいは直接ご持参ください。
お届けいただいた元版に改訂版を添えてご返送いたします。なお、直接下記へお持ちいただければ、その場で改訂版をお渡しいたします。

●ご送付先・ご持参先（お問い合わせ先）

〒980-0862　仙台市青葉区川内26番地
仙台市博物館情報資料センター　「仙台市史　改訂版」係
TEL 022-225-0862　FAX 022-262-7947

休館日は、月曜日（祝日・振替休日の場合は開館します）及び祝日・振替休日の翌日（土・日曜日、祝日の場合は開館します）です。年末年始は12月28日から1月4日までが休館日となります。その他、臨時休館することがございます。

※ご送付いただく場合には、後日返送時に必要となりますので、郵便番号・ご住所・お名前・電話番号を明記いただくようお願いいたします。
※開館時間は午前9時～午後4時45分となっておりますので、直接お持ちいただく方はご注意ください。
※博物館へお届けいただいた元版の奥付けに、「改訂版渡済」と押印させていただきますのでご了承ください。

施設探訪

市史編さん室では写真や資料の収集などのため、調査に出かけたりもします。ここでは今までに訪れた施設をご紹介します。

仙台市水道記念館

水道記念館

豊かな自然に恵まれた青下水源地。水道記念館はこの恵まれた環境のなかに仙台市水道給水70周年を記念してつくられ、平成5年（1993）8月にオープンしました。仙台市の水道給水が始まったのは大正12年（1923）からで、その後の給水量の増加に伴い拡張事業を経て、昭和9年（1934）青下川を水源とした3つのダムからなる青下水源地が完成しました。

館内は給水開始当時に使われていた鋳鉄製の水道管や蛇口の展示をはじめ、内務省からの水道敷設認可書、水道工事の際に使用した出勤簿など仙台市水道のあゆみを学べる1階と、水道のしくみと水と環境をテーマに、パネルと映像でわかりやすく紹介している2階からなっています。

記念館周囲にある段々式の3つのダムは現在も稼動しており、第1ダム右岸に建てられた昭和8年完成の青下ダム旧管理事務所は、曲面構成の階段室・丸窓など国際様式指向の建築で時代性を感じさせます。昭和9年に設置された青下ダム記念碑は正面に山羊頭の噴水口を設け、背面には工事に携わった当時の人びとの名が連ねられています。モダンな造りのこれらの建物は国の登録有形文化財となっています。

青下ダム旧管理事務所

なお、ダム・水道については『資料編5　近代現代1　交通建設』で取り上げております。

仙台市水道記念館
宮城県仙台市青葉区熊ケ根字大原道地内　TEL:022-393-2188
開園時間　9:30～16:00
休 園 日　◎月曜日（祝日を除く）　◎祝日の翌日（日曜の場合は火曜日）
※12月1日～3月31日は閉館
入 館 料　無料
交通案内　仙台市営のバスの場合
◎仙台駅前発・定義行き乗車、大手門入口下車、徒歩10分
お車の場合　◎仙台駅から40分
◎仙台宮城インターチェンジから30分

おねがい　市史編さん室では、仙台の歴史にかかわる資料を探しています。よりよい仙台市史を作るためにはより多くの資料が必要です。皆さまのお宅に古い文書や写真などございましたら、ぜひ編さん室までお知らせください。　TEL:022-225-3074

仙台の歴史を完全収録　好評発売中

宮城県内主要書店、仙台市博物館2階売店でお求めになれます。
配送をご希望の方は、電話・FAXで（株）宮城県教科書供給所へお申し込みください。

発売元　（株）宮城県教科書供給所
〒983-0034
仙台市宮城野区扇町一丁目6-3
TEL:022-235-7181
FAX:022-235-7183
お問い合わせ先
仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862
仙台市青葉区川内26番地〈仙台城三の丸跡〉
TEL:022-225-3074
FAX:022-262-7947

【通史編1】原始
【通史編2】古代中世
【通史編3】近世1
【通史編4】近世2
【通史編5】近世3
【資料編1】古代中世
【資料編2】近世1　藩政
【資料編3】近世2　城下町
【資料編4】近世3　村落
【資料編5】近代現代1　交通建設
【資料編6】近代現代2　産業経済
【資料編7】近代現代3　社会生活
【資料編10】伊達政宗文書1（完売）
【資料編11】伊達政宗文書2
【資料編12】伊達政宗文書3
【特別編1】自然
【特別編2】考古資料
【特別編3】美術工芸
【特別編4】市民生活
【特別編5】板碑
【特別編6】民俗

通史編　3,000円(本体2,858円)
資料編　4,000円(本体3,810円)
特別編　6,000円(本体5,715円)
※板碑のみ 5,000円(本体4,762円)
1冊ずつお求めになれます
【通史編1】原始は改訂版とセット販売となります

続刊予定
◎通史編／近代1～2・現代1～2
◎資料編／近代現代4・伊達政宗文書4・仙台藩の文学芸能
◎特別編／城館・慶長遣欧使節

せんだい市史通信 第14号
発行年月日／平成17年8月31日
編集・発行／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862　仙台市青葉区川内26番地<仙台城三の丸跡>
TEL／022-225-3074
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum
R100
古紙パルプ配合率100%白色度85%再生紙を使用しています